

平成29年7月22日

杉並区長 田中 良 殿

地域団体 保育園ふやし隊@杉並

認可保育所の入所と保育環境に関する要望書

趣旨

日頃より、待機児童対策に対して積極的な施策に取り組んでいただいておりますことを深く感謝申し上げます。昨年度には緊急待機児童対策本部を立ち上げ、認可保育所の増設にご尽力いただきました。保育課の皆さまをはじめ、多大なご苦勞もあつたかと想像します。そのかいもあり、29年度4月入所申込みにおいては、28年度入所と比較すると、入所決定率は大きく改善されました。選考結果の通知後には、当団体にもたくさんの方から喜びの声が届きました。

しかしながら、一方で、入所を希望して不承諾となった子どもも未だ多数存在します。全体としては入所決定率が改善しようとも、不承諾となった子どもとその家庭個々にとっては、その後の働き方や一生を左右する可能性がある行政処分であることには違いありません。私たちは、希望するすべての人が、年度途中でも希望する時期に保育所に入所できるようになることを望んでいます。

杉並区が、待機児童問題の改善に今後も継続して取り組み、すべての人が希望通りの子育て環境を選択でき、すべての区民が活躍できる自治体の模範となることを期待しています。待機児童対策を超えた保育・子育て環境の改善の拡充を求め、下記を要望いたします。

また、お忙しいとは思いますが、本要望書への回答を希望いたします。頂いた回答はMLやブログなどで公開していく予定でございます。

記

1. 待機児童の解消について

H29年4月には緊急対策により多数の新設園が開設されましたが、認可保育所の入所を希望しながら不承諾となった子どもが約1400人います。引き続き、認可保育所の整備に努めていただくことを要望します。

また、入園できる見込みがないために、申し込み自体を断念している方が多く存在します。妊娠・出産を機に退職して再び就職を希望する方、日数や時間を絞って勤務したい方、自営業やフリーランスの方、障害や病気を持つ保護者の方など、様々な事情に応じて多様な働き方が選択できるように、入所申込数に現れていない潜在需要を見込んだ増設計画を作成してください。

2. 地域格差の改善について

緊急対策により多数の新設園が開設されましたが、区内の全地域で改善されたとはいえません。引き続き、地域格差の改善に努めていただくことを要望します。

H30年4月新設予定の発表を受けて、入園希望者は期待を持って計画を見守っています。1園でも計画を断念することがないように、杉並区が主導を取って確実に来年度の新設計画を実現してください。

その上で、来年度以降は地域や園ごとの倍率や、電車の沿線地域、マンション新築などによる人口の増減を予測して、必要とされる場所に計画的に認可保育所を整備していただくようお願いいたします。

3. 保育の質の改善について

待機児童の解消に向けて量的な充足を望むことはもちろんですが、保育基準の強化とチェック体制の強化も同時に実施し、保育の質の改善に努めていただくことを要望します。

[1] 保育基準について

- 現状の認可保育所の保育士の配置基準は、1歳児5名あたり保育士1名となっていますが、震災など非常時に保育士1名で0歳児5名の安全を確保しながら避難することは困難です。保育士の配置基準を1歳児3名あたり保育士1名に強化し、非常時に対応できる体制を全ての保育所で整えてください。
- 保育士の配置基準を3歳児～5歳児各6名あたり保育士1名に強化してください。園庭がない、または十分な広さがない園庭の保育所が増えています。そのような園で子どもの適切な運動量を確保するには、毎日散歩ができる体制が必要ですが、現在の配置基準では対応できません。実際に、園庭のない公立認可保育所でも、年に数えるほどしか散歩に出られない園が存在しています。

[2] チェック体制について

- 巡回指導の体制強化する計画には期待しています。ただ実施するだけでなく、その結果が保護者にも伝わるように、違反項目や指導の有無を保育ホットナビで公開してください。
- 認可保育所の中でも、方針や質は園によって様々です。保育所同士の交流を図り、互いのやり方のよいところを取り入れたり、悪いところを指摘し合えるような施策を検討してください。

[3] 教育の充実

- 政策上幼保一元化が進められているものの、いまだ幼稚園やこども園の方が教育が充実しているという声を聞きます。近年就学前教育の重要性が指摘されているので、児童の教育に格差が生じないよう保育園も教育面の充実を図るようサポートしてください。
- 幼稚園、こども園、保育園で有する資格が異なるため、教育方針に差が出ないか懸念されます。定期的な勉強会など交流の場を儲け、その内容を区民の方に共有するなどとし、幼稚園も保育園も教育内容が変わらないことを区からもアピールしてください。

[4] 保育・子育て環境

- 保育園児も含めすべての子どもたちにとって、いつでものびのびと身体を動かすことができ、憩いの場となる公園は、成長過程において重要です。子どもたちが安心して遊べる公園を増やしてください。
- 幼稚園の園庭を、園児の降園後や週末に地域に解放していただけるように交渉してください。保育所に通う子どもに限らず、地域の子どもたちにとっても、安心して

遊べる場所は限られています。今ある資本を有効活用し、地域全体の子育て環境を向上させてください。

4. 利用調整基準について

保育の必要認定を受け認可保育所へ入所希望の状況で、年齢制限のある施設や認証保育所・認可外施設に通う保護者の利用調整基準・指数は、認可保育所の利用調整基準・指数と格差が生じています。保護者が安心して育児休業を取得し職場復帰できるように、認可保育所と認可外保育所の利用調整基準・指数の格差を解消していただくよう、以下を要望します。

- 認可保育所では認められている、兄弟がいる保護者で下の子の育児休業中であっても上の子を短時間認定とし、上の子単独での保育所の申込み・入所が出来るように、制度を改善してください。現状では、育児休業を取りたくても、兄弟の上の子を入所させたい場合は就労の上、下の子も保育所に入所させないといけなくなり、育児休業の切上げと2人分の保活が発生致します。
- 育児休業中の認可外保育の入所期間は預入期間として利用調整基準・指数に加点するように、制度を改善してください。加点が付かないことで妊娠・出産を躊躇するという意見が多くあります。

5. 0歳からでないとう園が厳しい状況の改善

育児休業取得者への加点を検討中とのことですが、そもそも1歳入所枠が少なければ、やむなく0歳から申し込む状況を生みます。0歳からでないとう園が厳しい状況を改善していただくことを要望します。

6. 隣接区との相互入園の制度について

隣接地域は選択肢が限られているので、他区との一定割合での相互入園の制度を作ってください。世田谷区との連携を検討しているとのことですが、中野区、渋谷区、練馬区、武蔵野市との連携制度も導入してください。

7. 情報公開の改善について

より保活当事者が知りたい情報を公開をしていただけるよう、以下を要望します。

- 他区と比較してもHP公開の情報や保育園マップの配布など情報が充実していますが、やはり窓口で得られる情報量の方が多いです。窓口では詳細情報が得られることを告知してください。
- 新規園については、規模や事業者名しか情報を得ることができません。同事業者の他園が遠方にしかない場合は見学が困難であるため、保育内容など詳細を公開してください。
- 「待機児童数」からは、入所希望者にとって、どの程度入所できる見込みがあるのか実態が分かりにくいです。地域毎に、認可保育所の申込者数に対する内訳（認可入所決定、認可外決定、育休延長、退職、未定等）を、保育ほっとナビで公開してください。

8. 3歳以降の受け皿の改善について

2歳児までの施設（認可保育所、小規模保育所、保育室、認証保育園など）に入所している子どもが、退所後の保活に苦労しています。現状を改善するよう以下を要望します。

- 3歳児以降も継続して保育施設に入所できるよう連携施設を早急に確保し、計画を発表してください。
- 退所後の選択肢を増やすため、子供園では希望制で完全給食を導入してください。
- 3歳で入所できる見込みがないために申込みを諦めて、最初から幼稚園や子供園を希望した場合は待機児童数にはカウントされません。本来の希望ではないが幼稚園に入園した方がいないか、調査してください。

9. 保育士を増やす取り組みについて

杉並区に限らず新設園が多数作られています。現状でも保育士の確保には苦労していると聞くため、新規園が保育士を確保できるのか、保護者は不安に思っています。人材確保を事業者任せにせず、区独自で待遇を上乗せするなど、杉並区主導で保育士確保に取り組んでいただくよう要望します。